

外科学第一

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
准教授	1 人
講師（うち病院籍）	2 人 (2 人)
病院講師	1 人
助教（うち病院籍）	4 人 (2 人)
診療助教	3 人
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人
医員	2 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	3 人 (0 人)
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	2 人
合計	19 人

2 教員の異動状況

椎谷 紀彦（教授）（H21.2.1～現職）
 船井 和仁（准教授）（H22.4.1～H23.6.30 特任講師；H23.7.1～現職）
 山下 克司（講師）（H15.1.1～現職）
 和田 英俊（講師）（H21.4.1～現職）
 鷺山 直己（助教）（H13.6.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職）
 小倉 廣之（助教）（H18.1.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職）
 佐藤 正範（助教）（H22.4.1～現職）
 大倉 一宏（助教）（H20.9.1～H23.3.31 診療助教；H23.4.1～現職）
 宮木 祐一郎（助教）（H21.4.1～現職）
 高橋 大輔（診療助教）（H23.4.1～現職）
 川瀬 晃和（診療助教）（H24.4.1～現職）
 渡邊 貴洋（救急部診療助教）（H24.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	10 編 (0 編)
そのインパクトファクターの合計	26.80

(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	2 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	5 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.61	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Wada H, Kimura T, Kawabe A, Sato M, Miyaki Y, Tochikubo J, Inamori K, Shiuya N. Laparoscopic trans abdominal preperitoneal inguinal hernia repair using needlescopic instruments: a 15-year, single-center experience in 317 patients. Surg Endosc. 26:1898-902, 2012.
2. Koizumi K, Alonso S, Miyaki Y, Okada S, Ogura H, Shiuya N, Konishi F, Taya T, Perucho M, Suzuki K. Array-based identification of common DNA methylation alterations in ulcerative colitis. Int J Oncol. 40:983-94, 2012.
3. Sekihara K, Funai K, Shimizu K, Kawase A, Shiuya N. Findings and Outcomes from a Retrospective Study of Non-Small Cell Lung Cancer Patients with Synchronous Solitary Brain Metastases. An Analysis of Six Cases. The Open Cardiovascular and Thoracic Surgery Journal 5:38-42, 2012.

インパクトファクターの小計 [6.412]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kato T, Suzuki K, Okada S, Kamiyama H, Maeda T, Saito M, Koizumi K, Miyaki Y, Konishi F. Aberrant methylation of PSD disturbs Rac1-mediated immune responses governing neutrophil chemotaxis and apoptosis in ulcerative colitis-associated carcinogenesis. International Journal of Oncology 40:942-950, 2012.
2. Saito M, Suzuki K, Kato T, Okada S, Kamiyama H, Maeda T, Koizumi K, Miyaki Y, Kiyozaki H, Konishi F. The accumulation of DNA demethylation in Sat a in normal gastric tissues with Helicobacter pylori infection renders the susceptibility to gastric cancer in some fractions of individuals. Oncology Reports 27:1717-1725, 2012.
3. Kamiyama H, Suzuki K, Maeda T, Koizumi K, Miyaki Y, Okada S, Kawamura YJ, Samuelsson JK, Alonso S, Konishi F, Perucho M. DNA demethylation in normal colon tissue predicts predisposition to multiple cancers. Oncogene 31:5029-5037, 2012.
4. Nakamura T, Homma Y, Miyata N, Ushida S, Suzuki K, Otsuki Y, Nakamura H, Funai K, Toyoda F.

Only surgical resection can identify the second primary lung cancer out of the metastasis after gastric cancer surgery. Japanese Journal of Clinical Oncology 42:609-611, 2012.

5. Nakao M, Yoshida J, Goto K, Ishii G, Kawase A, Aokage K, Hishida M, Nagai K. Long-term outcome of 50 cases of limited-resection trial for pulmonary ground-glass opacity nodules. J Thorac Oncol 7:1563-6, 2012.
6. Ohtaki Y, Hishida T, Yoshida J, Ishii G, Kawase A, Aokage K, Nishimura M, Nagai K. The clinical outcome of non-small cell lung cancer patients with adjuvant lobe invasion: the optimal classification according to the status of the interlober pleura at the invasion point. Eur J Cardio-Thorac Surg 43:302-9, 2013.
7. Kawase A, Yoshida J, Ishii G, Nakao M, Aokage K, Hishida T, Nishimura M, Nagai K. Differences between squamous cell carcinoma and adenocarcinoma of the lung: Are adenocarcinoma and squamous cell carcinoma prognostically equal? Jpn J Clin Oncol 42:189-95, 2012.

インパクトファクターの小計 [20.384]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. Shiyya N. Aortic arch replacement for degenerative aneurysms: advances during the last decade. Gen Thorac Cardiovasc Surg 61:191-6, 2013.
 2. 椎谷紀彦. 討論：腋窩動脈送血時における脳循環不全発生例. 胸部外科 65:1110-1, 2012.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. 椎谷紀彦. 専門医の管理・治療が必要な疾患のガイドライン【循環器疾患】10.大動脈瘤. 泉孝 英編、日経メディカル開発、東京. 2013.
 2. 和田英俊. 細径鉗子を用いた腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術. 単孔式内視鏡手術 基本テクニックとその応用. 木村泰三、森 俊幸、岡島正純、編、南江堂、228-232, 2012.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. Funai K, Suzuki K, Sekihara K, Shimizu K, Shiyya N. Five-year tumor-free survival after aggressive

trimodality therapy for T3N0M1b non-small cell lung cancer with synchronous solitary brain metastasis. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 60:370-2, 2012.

2. 岡本 卓也, 船井 和仁, 関原 圭吾, 清水 恵, 椎谷 紀彦. 頸部膿瘍を契機に発症した降下性壊死性縦隔炎の一例. 日本呼吸器外科学会雑誌 26:510-514, 2012.
3. 朽久保 順平, 和田 英俊, 佐藤 正範, 宮木 祐一郎, 小野田 貴信, 椎谷 紀彦. Spigel ヘルニアに対して腹腔鏡下修復術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 17:511-516, 2012.
4. 大倉 一宏, 椎谷 紀彦, 山下 克司, 鷺山 直己, 鈴木 正人, 高橋 大輔, 山中 憲. 第一対角枝一枝病変による急性心筋梗塞後の前外側乳頭筋断裂に対する1手術救命例. 日本心臓血管外科学会雑誌 41:165-168, 2012.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Yamashita T, Hiramatsu H, Washiyama N, Shiiya N, Namba H. Repeated brain infarction caused by atherosclerosis of the bovine aortic arch successfully treated with arch replacement: case report. Neurol Med Chir (Tokyo). 52:914-7, 2012.

インパクトファクターの小計 [0.609]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	2 件	(100 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	2 件	(31 万円)
(5) 受託研究または共同研究	21 件	(362 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	21 件	(1007 万円)

- (1) 文部科学省科学研究費
 - 基盤研究C 24592056（代表）
 - 基盤研究B 2330018702（分担）
- (2) 厚生労働科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成
- (4) 財団助成金
 - (財) パブリックヘルスリサーチセンター
- (5) 受託研究または共同研究
 - 企業 21 件

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	8 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	6 件
(3) 学会座長回数	0 件	21 件
(4) 学会開催回数	0 件	2 件
(5) 学会役員等回数	0 件	32 件
(6) 一般演題発表数	2 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Ogura H, Yoshimoto K, Nasu H, Hosokawa Y, Matsunuma R, Ide Y, Yamaki E, Yamashita D, Suzuki T, Yamashita Y, Sakahara H. The Clinical Trial of New Optical Mammography. 35th San Antonio Breast Cancer symposium, 2012/12/10, San Antonio (USA).
2. Ide Y, Seto M. Human breast cancer tissues contain abundant PC(36:1) with high SCD1 expression. 13th International Conference Primary Therapy of Early Breast Cancer. 2013/03/13, St Gallen (Switzerland)

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
 1. 日本循環器学会東海地方会、2012/7/7、浜松
 2. 第 10 回日本ヘルニア学会東海地方会、2013/02/23、名古屋
- 2) 学会における特別講演・招待講演

椎谷紀彦

1. postgraduate course 弓部置換術手技、日本胸部外科学会総会、2012/10、福岡
2. 胸腹部大動脈瘤に対する open surgery、日本外科学会総会 2012/4、千葉
3. 感染を伴う胸部・胸腹部大動脈瘤の手術、大動脈瘤シンポジウム、2012/6、東京
4. 大動脈解離の外科治療、中国地方・大動脈手術研究会、2012/11、広島
5. 大動脈弁温存・形成手術の現況、葉山ハートセミナー、2013/3、葉山
6. 大動脈弁温存・形成手術の現況、時計台循環器ミーティング、2012/9、札幌

和田英俊

1. 教育セミナー 当科で行なっている TAPP の手技、日本ヘルニア学会学術集会、名古屋、2012/4/28
 2. 教育講演 腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 - 解剖と手術のポイント - 第2回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会、2013/02/09、横浜
- 3) シンポジウム発表
1. 佐藤正範、和田英俊、宮木祐一郎、稲守宏治、椎谷紀彦. パネルディスカッション 4 当科での腹腔鏡下手術教育システムにおける経腹腔的腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(TAPP)の役割. 日本ヘルニア学会学術集会、2012/4/28、名古屋
 2. 和田英俊、佐藤正範、宮木祐一郎、朽久保順平、稲守宏治、椎谷紀彦. シンポジウム 腹腔鏡手術における JHS 鼠径ヘルニア分類の妥当性と問題点. 日本ヘルニア学会学術集会、2012/4/28、名古屋
 3. 和田英俊、佐藤正範、宮木祐一郎、朽久保順平、稲守宏治、椎谷紀彦. シンポジウム Reduced port surgery(needlescopic surgery)による腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の検討. 日本臨床外科学会総会、2012/11/3、東京.
 4. 和田英俊、佐藤正範、宮木祐一郎、朽久保順平、渡邊貴洋、椎谷紀彦. シンポジウム Reduced port surgery による腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の利点と欠点. 日本内視鏡外科学会総会、2012/12/6、横浜
 5. 和田英俊、佐藤正範、宮木祐一郎、朽久保順平、渡邊貴洋、椎谷紀彦. パネルディスカッション 腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術のコツとトラブルシューティング. 日本内視鏡外科学会総会、2012/12/6、横浜.
 6. 脇 紀彦、井手佳美、高橋司、後藤健介、椎谷紀彦、瀬藤光利. ワークショップ Evolving FACS Technology 乳癌循環腫瘍細胞のフローサイトメトリー法による精製と質量顕微鏡法による解析. 日本サイトメトリー学会、2012/6/29、大阪.
- 4) 座長をした学会名

椎谷紀彦

1. 口演 胸部大動脈1. 日本心臓血管外科学会学術総会、2012/4/18、秋田
2. シンポジウム2：弓部・遠位弓部大動脈瘤に対する治療戦略（Open・debranching TEVAR）. 日本血管外科学会総会、2012/5/24、長野
3. ランチョンセミナー8. 日本血管外科学会総会、2012/5/24、長野
4. 一般演題. 東海エンドバスキュラーシンポジウム、2012/6/3、名古屋
5. 教育講演4：大血管. 関西胸部外科学会学術総会、2012/6/22、大阪
6. 教育講演2. 日本循環器学会東海地方会、2012/7/7、浜松
7. 特別講演. 血管外科アカデミー、2012/8/25、函館
8. 一般演題口演：補助循環3. 日本人工臓器学会総会、2012/11、福岡
9. 主題関連演題：併存疾患と癌外科治療3. 日本臨床外科学会総会、2012/11/29、東京
10. 静岡県ステントグラフト症例検討会、2012/12/14、静岡
11. 特別講演. 浜松心臓血管外科研究会、2012/12/16、浜松

12. 一般講演 4 胸部大動脈. 第 43 回日本心臓血管外科学会、2013/2/25、東京

山下克司

1. 心筋梗塞 3. 日本循環器学会東海地方会、2012/7/7、浜松
2. 一般演題. 浜松心臓血管外科研究会、2012/12/16、浜松
3. 一般演題、東海心臓外科懇話会、2013/2/9、名古屋

和田英俊

1. ビデオシンポジウム. 日本ヘルニア学会学術集会、2012/4/2、名古屋
2. シンポジウム. 日本臨床外科学会総会、2012/11/30、東京.
3. 一般演題. 日本内視鏡外科学会総会、2012/12/8、横浜.
4. 一般演題. 第 8 回 Needlescopic Surgery Meeting、2013/02/16、仙台

鷺山直己

1. 一般演題. 日本循環器学会東海地方会、2012/7/7、浜松

小倉廣之

1. 一般演題. 日本乳癌学会総会、2012/6/29、熊本

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

椎谷紀彦

日本血管外科学会 理事

医療安全委員長、将来構想副委員長、学術委員、教育システム検討委員、外保連委員

日本心臓血管外科学会 評議員

学会誌編集委員、学術教育委員

日本胸部外科学会 評議員

日本外科学会 代議員

日本脈管学会 評議員

日本人工臓器学会 評議員

日本大動脈外科研究会 常任世話人

血管外科アカデミー 世話人

大動脈瘤シンポジウム 世話人

東海心臓外科懇話会 幹事

東海 endovascular symposium 世話人

東海重症心不全研究会 幹事

関西胸部外科学会 評議員

東海外科学会 評議員

日本循環器学会東海支部 評議員

中部血管外科学会 評議員

船井和仁

日本胸部外科学会 評議員

日本外科学会 代議員

日本呼吸器外科学会 評議員

和田英俊

日本内視鏡外科学会 評議員、ガイドライン協力委員、技術認定医審査委員

日本臨床外科学会 評議員

日本ヘルニア学会 評議員、評議員選定委員、保険診療委員、学術用語委員、外保連実務委員

小切開・鏡視外科学会 評議員

単孔式内視鏡手術研究会 世話人

Needlescopic Surgery Meeting 世話人

腹腔鏡下胆道手術研究会 発起人メンバー

日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会 世話人（幹事）

山下克司

関西胸部外科学会 評議員

日本循環器学会 東海支部評議員

小倉廣之

日本乳癌学会 評議員

日本乳癌検診学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

椎谷紀彦

日本心臓血管外科学会雑誌 編集者（PubMed なし）

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

椎谷紀彦

Eur J Cardio-Thorac Surg	8 回	欧州 (IF=2.55)
Int Cardiovas Thorac Surg	4 回	欧州 (PubMed)
Circ J	1 回	日本 (IF=3.766)
Surg Today	5 回	日本 (IF=1.224)
Gen Thorac Cardiovas Surg	5 回	日本 (PubMed)
Ann Vasc Dis	3 回	日本 (PubMed)
Ann Thorac Cardiovas Surg	6 回	日本 (PubMed)

和田英俊

Asian J Endosc Surg	1 回	日本 (PubMed)
International Surgery	1 回	米国 (IF=0.36)

9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	1 件
(3) 学内共同研究	0 件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

JRAD 研究 (心臓血管外科)

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での授賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 椎谷紀彦 中日新聞 2012.9.15 特集: 健康浜松 21 高齢者に優しい心臓外科手術の進歩